

Title	形成外科新設後の15年間を振り返って
Author(s)	田中, 一郎
Journal	歯科学報, 120(4): 495-495
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10130/5388">http://hdl.handle.net/10130/5388</a>
Right	
Description	

## 特別講演 3

### 形成外科新設後の15年間を振り返って

東京歯科大学市川総合病院形成外科教授 田中 一郎

東京歯科大学市川総合病院に形成外科を新設後、初代部長として約15年間の勤務で行ってきた形成外科診療や関連する活動につき述べてみたい。

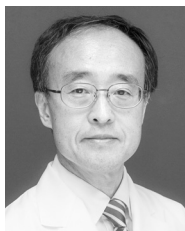
専門とする顔面神経麻痺では専門外来を開設し、全国から来院する患者の治療として、従来は単に回復待ちであった麻痺後早期における神経再建、神経血管柄付き遊離薄層前鋸筋移植による多方向ベクトルを考慮した表情再建、有効な治療手段がなかった顔面拘縮・病的共同運動・鰐の涙などの後遺症に対する神経再建やボツリヌストキシン治療、新しい眼瞼部静的再建法などのオリジナルな治療を行ってきた。また表情運動の客観的評価法として臨床に応用可能な、ビデオ撮影画像からの表情解析システムを慶応大学理工学部と共同開発し、継続的に科研費を獲得して研究を遂行した。

東京歯科大学の主要テーマの一つである口腔癌治療においては、癌の拡大切除後の組織欠損に対して咀嚼・嚥下・言語などの重要な機能と顔面形態の再建を、微小血管吻合の特殊技術を要する遊離組織移植により200例近くに行い、100%近い生着率を上げてきた。また当院に適した独自の口腔機能・顔面形態の術前後評価法を作成するプロジェクトを立ち上げ、歯科・口腔外科医、歯科衛生士、理学療法士・言語聴覚士らと合同で勉強会を行いながら約1年半近くをかけて評価法を作成し、電子カルテ上で使えるシステムとして完成させた。

糖尿病、虚血、静脈鬱滞等による難治性下腿・足病変は高齢化と共に近年増加傾向にあるが、血管外科・皮膚科・糖尿病内科と合同で創傷センターを開設し、市川市内外の周辺地域より多くの難治症例を受け入れ、複数科のチーム医療による統合的な治療を行ってきた。

褥瘡委員長としては褥瘡回診や予防活動により褥瘡保有率を1%以下まで抑え込んだが、院内発生例は少なくほとんどが院外からの持ち込みであり、地域への褥瘡予防の啓蒙が重要と認識し市川市役所と医師会に呼びかけ、地域の看護介護職を対象として、地域連携褥瘡講習会を土曜日午後15時に年2回ペースで開催した。皮膚排泄ケア認定看護師、薬剤師、理学療法士、管理栄養士らによる少人数実習や褥瘡関連の薬剤、寝具、皮膚ケア材の展示も行い、参加者からは大きな反響を得た。また褥瘡予防にきわめて重要であるが方法が分かりづらい除圧ポジショニングに対しては、必要時に視聴して実践できる除圧ポジショニング説明ビデオを作成し、さらにeラーニングで看護師教育も可能なシステムとした。

#### 《プロフィール》



#### <略歴>

1982年3月 慶應義塾大学医学部卒業  
 1982年4月 慶應義塾大学医学部研修医（形成外科）  
 1984年4月 慶應義塾大学医学部助手（専修医）（形成外科）  
 1986年5月 慶應義塾大学助手（医学部形成外科学）  
 1987年12月 埼玉医科大学総合医療センター形成外科助手  
 1990年8月 静岡日本赤十字病院形成外科部長  
 1994年8月 慶應義塾大学助手（医学部形成外科学）  
 1995年8月 弘前大学医学部形成外科講師  
 1998年9月 栃木県済生会宇都宮病院形成外科医長  
 1999年9月 栃木県立がんセンター頭頸科第2耳鼻咽喉科医長

2000年1月 カナダToronto大学Toronto General Hospital 留学  
 2001年4月 慶應義塾大学助手（医学部形成外科学）  
 2002年4月 慶應義塾大学専任講師（医学部形成外科学）  
 2006年6月 東京歯科大学市川総合病院皮膚科（形成外科）准教授  
 2008年6月 東京歯科大学市川総合病院形成外科准教授  
 2012年4月 東京歯科大学市川総合病院形成外科教授  
 現在に至る

#### <資格、学会など>

医学博士、日本医師会認定産業医  
 形成外科専門医、日本頭蓋顎顔面外科学会専門医、日本創傷外科学会専門医、日本形成外科学会皮膚腫瘍外科分野指導医、日本形成外科学会再建・マイクロサージャリー分野指導医、日本形成外科学会領域指導医

日本形成外科学会評議員、日本マイクロサージャリー学会評議員、日本頭蓋顎顔面外科学会代議員、日本顔面神経学会評議員、日本コンピュータ支援外科学会評議員、日本創傷外科学会、日本形成外科手術手技学会、日本乳房オンコプラスチック学会